

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2437号 2018年12月17日(月曜日)

《 BOJ and FOMC meetings 》

今週は日米で金融政策決定会合が開かれる。ECBが量的金融緩和の年内終了を発表した後だけに、「では日本はどうするのか」という議論・疑問は高まっている。日銀の今週の決定、そしてその後の黒田総裁の記者会見での発言には注目が集まる。特に記者会見では、「次に金融危機が起きた時の日銀の対応」について質問が出るだろう。私が記者だったらそうする。「準備は出来ている。緩和の手段は尽きない」という答えが予想されるが、「では具体的に何か」というマーケットの疑念は強い。来年は再び黒田日銀の出方に注目が集まるだろう。今回はその前哨戦だ。

マーケットへのインパクトが大きいと予想されるのはアメリカのFOMCだ。日程的に日銀の会合に先行して行われ、声明・各種政策判断資料発表とパウエル議長の記者会見は日本時間の木曜日早朝に予定されている。黒田総裁の記者会見は同じ木曜日の午後。FOMCの決定としては、「今年4回目の追加利上げ」が見送られたら一番のサプライズだ。マーケットのリアクションが一番大きくなると予想される。世界経済の減速予想、米中貿易戦争の帰趨見極め、株価の軟調などあり「様子見の必要」などを理由としてあり得ない訳ではない。

しかし政策のモメンタムからすれば、今回は利上げをして来年についての展望の中でペースダウンを示唆する可能性が高いと見る。マーケットのコンセンサスもそうだ。「2019年に一旦利上げ停止」の観測が出てきた切っ掛けは11月末のパウエル議長の講演だ。この講演の際の言葉遣いに関しては「マーケットサイドに誤解がある」と12月03日の号(2435 <https://arfaetha.jp/ycaster/news/pdf/20181203.pdf>)で指摘したが、これとは別に直近の議事録要旨でも「四半期置きの上昇継続」を停止する可能性に触れていた。やはりFRBにとっても、景気に加えてニューヨークの株価の動向が気になりだろう。

その背景から、声明の内容と声明発表後のパウエル議長の発言が注目だ。声明文章に今から「来年はペースダウンします」などと書くとは予想できない。しかしそれを臭わずことは可能性としてあるし、議長もその手の会見発言をする可能性がある。何よりも記者の方々からは、マーケットにインパクトを与えた11月末のニューヨーク講演の真意に対する質問はいくつも出るだろう。特に「just below the broad range of estimates of the level that would be neutral for the economy」の部分。

「追加利上げ」と「今後のペースダウン示唆」が同時に来た場合、マーケットが材料視するのは恐らく後者だ。株は買われ、そしてドルは下げる可能性がある。マーケットは常に「今

後」を睨んで動く。「示唆」の瞬時でのマーケットの受け取り方は微妙で、FOMC の声明発表後の動きには注意した方が良い。いずれにせよマーケットの反応は瞬時になるので、その後直ぐに流れが変わる可能性がある。マーケットはパウエル議長での記者会見の一言一言にも注意を払うことになる。

トランプ大統領の FRB 批判は下火になっている。ホワイトハウスのケリー首席補佐官の後任探しもあるし、自分に迫り来る司法の手にかに反撃するかもあるので、忙しいと推察される。対中関係も難しい。

特に「年内退任」と発表してしまったケリー補佐官の後任選びは「マルバニー代行」を発表したものの、なぜ「代行」なのかは不明なままだ。現在行政管理予算局（OMB）局長のマルバニー氏に関しては「首席補佐官への就任」の可能性もあるとされるが、彼自身はホワイトハウス首席補佐官の席にはあまり興味はなく、むしろ財務長官や商務長官への就任希望だと伝えられる。

いずれにせよ、回転木馬から次々と乗り手が離脱する今のトランプ政権。トランプ大統領の意中の人は次々と辞退したと伝えられる。大統領は「なり手は山ほどいる」と言っているものの、司法の手が伸びて景気も今後悪化する可能性がある中で、敢えて今のトランプ政権に身を投じる人の数は少なくなっているようだ。

CNBC とウォール・ストリート・ジャーナルがこの週末に発表した世論調査結果を見ても、38%の主に関与者支持者は依然としてトランプ支持で固まっているが、一般国民の間にも徐々に批判的な意見が強まっており、「何らかの形で大統領は法に反することをした」と見る人の割合が増えている。

こうした全般的な“政局”も、いずれドル相場の行方を左右しそうだ。特に来年はその可能性が高まると思われる。

《 on and off 》

先週予定されていたメイ首相の EU 離脱案（EU 側と合意した）に関する英議会採決は、土壇場になって首相が延期を表明。先週の号で「政治的な選択」としてその可能性を示唆しておいたが、延期しても展望が開かれるわけではないので行われる可能性があるともみていた。しかしメイ首相の選択は違った。この延期決定にはメイ政権の閣僚の何人かも驚き、その後の保守党党内でのメイ党首不信任案に 117 もの賛成票が集まる背景となったとされる。党首不信任投票の結果は「信任 200 不信任 117」で、この結果はメイ首相にとって極めて厳しい。

EU サイドは、一旦はまとまった離脱案で事を収めたいのでメイ首相に助け船を出したい。しかしメイ船が沈没寸前なだけにどのように手を貸して良いのか分からないというのが実情だろう。相変わらずアイルランドと北アイルランドの国境を巡る諸問題が最大難関となっていて、「延期しても展望が開かれるわけではない」状態が続いている。英議会の採決の期限も来年に入ると直ぐに迫ってくるし、3 月末の離脱そのものも間近だ。引き続きイギリ

スは迷走し、そしてポンドの先行きは不安定だ。

米中の貿易交渉に関しては時に楽観的な見方も台頭するが、全体的には「状況は厳しい」との見方が強まっている。先週のニューヨークの株も引け味は悪い。この問題は何回も取り上げているので繰り返さないが、そもそも戦略的・覇権的な対立構造が顕在化している中で、当面の経済悪化という両国にとってのデメリットをどのような形で取り除く枠組みを作るかの戦いとなっている。

アメリカもあまり株価が落ちるような対中政策は採りにくい。一方の中国も、経済の悪化が着実に進展し、それは習近平批判に繋がりやすい。両国とも落とし処を探している最中だが、ここでも2月末という期限が刻々と迫っている。今後もマーケットは楽観と悲観の間で揺れ動くだろう。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------|---|
| 12月17日（月曜日） | 11月首都圏新規マンション発売
米12月NY連銀製造業景気指数
米12月NAHB住宅市場指数
米10月対米証券投資 |
| 12月18日（火曜日） | 20年国債入札
独12月Ifo景況感指数
FOMC（～19日）
米11月住宅着工件数
米11月建設許可件数 |
| 12月19日（水曜日） | 日銀金融政策決定会合
11月貿易統計
11月訪日外客数
タイ中銀金融政策決定会合
パウエルFRB議長会見（経済見通し発表）
米7～9月期経常収支
米11月中古住宅販売件数 |
| 12月20日（木曜日） | 黒田日銀総裁会見
10月全産業活動指数
英国金融政策発表
米12月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
米11月CB景気先行総合指数
米5年インフレ連動国債入札
メキシコ中銀金融政策決定会合 |

12月21日（金曜日）

11月消費者物価指数
米7～9月期GDP確定値
米11月耐久財受注
米11月個人所得・個人支出

アメリカでは21日に連邦政府暫定予算の期限を迎える。トランプ米大統領は議会民主党とメキシコ国境の壁建設をめぐって対立、先日のホワイトハウスでの大統領と民主党幹部との口論は全米国民の見るところとなった。トランプ大統領はその際、「壁の予算が付かなければ、政府閉鎖も辞さない」と発言。またしても政府機関が一時閉鎖に追い込まれかねない。市場は「またか」との受け止めになる可能性があるが、長期化の危険性が出てくればマーケットには悪材料となるだろう。

米経済指標では12月NY連銀製造業景気指数、11月住宅着工件数、11月中古住宅販売件数、フィラデルフィア連銀製造業景気指数、米11月耐久財受注などが注目される。今後暫くは「アメリカ経済の実相」「減速具合」が注目だ。

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。とにかく寒かった。土日にかけて箱根に行ったのですが、目覚めたら外気温が「マイナス1度」でした。今朝も寒いし、かつ東京では雨が降っている。雨は午前中は降り続くようで、その結果湿度は上がったが、一方で温度は上がらない。風邪など引きませぬように。紅葉も終わり、既に冬本番の雰囲気もある。

先週ですが、東京で面白い本屋さんがオープンしました。六本木。同交差点から六本木ヒルズに向かって歩く左側。かつて青山ブックセンターがあった場所に先週の月曜日に開店した「文喫」。何が特徴かということ「入店に1500円が必要」という点。この入店代金には店内喫茶コーナーでのコーヒー代が含まれます。

そもそもお店に入るのにお金が必要というのはレアです。何かショーをやっている店なら当然ですが、デパート、スーパー、そして普通の各種店舗はそうです。「とにかく入って下さい」というのが普通。しかしこの本屋は「入店が1500円」。私は開店した二日目の火曜日に行きました。予定が空いた1時間くらい。お昼時だったので、有料のカレーも頂いた。

しばらく時間を過ごした印象を書くと、「ありかな」と思いました。入り口付近の本の展示も一冊一冊が大事にされている印象がして面白いし、奥の基本的構造は青山ブックセンターの時とあまり変わりませんが、奥右は全部椅子席に変えられている。テーブルがある席と、椅子だけの席。なので「本屋が入場で1500円取るのだから、本は山ほどあるのだろう」と思うと違う。青山ブックセンターの時の方が遙かに多い。

ではなぜ1500円取れるのかということ、「特殊な空間」だと思う。思い浮かべたのは代官山T-SITEです。あの本などを中心に置いた商業エリア。あれをギュギュッと詰めて六本木に

もってきた感じ。もっとも随分とシンプルです。多分実験店なんでしょう。しかし私はカレーでお昼をいただきながら、結構静かな時間を過ごせました。まだ私のように見物客が多かった印象ですが、スタバとか普通のコーヒー店とは違って直ぐの所に本がある。なので、私も滞在していた1時間の間に2冊ほど本を読みました。旅関係の。振り返ると良い時間の過ごし方だった。

時間のある方はお立ち寄り下さい。それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》